HEROES ヒーローズ

逆境を勝ち越えた英雄たち

マータイ博士を通して語る池田先生

どんな壁が立ちはだかろうと、勇敢なる青年の行く手を阻むことはできない。「壁を破る」――これこそが、青年の特権である。

マータイ博士が東京・八王子市の創価大学で講演。「博士を支えた希望は？」との学生からの質問に、「あきらめずに、何か行動を起こすことが私の信条」と応じた。この日、博士に創大名誉博士号が授与された（2006年2月）

何かを変えたければ、自分自身から。生きていること自体が素晴らしい体験なのだから、楽しんでいかなければ！

3面から続く

離婚、失業、同僚の裏切りなどの逆境にも見舞われたが、へこたれなかった。「『失敗は罪ではない』のだ。大切なのは、失敗したときにも、背筋を伸ばして前進し続けるエネルギーと意志をもつこと」との信念があったからだ。

アフリカの環境の母・マータイ博士。「マータイ・スマイル」と呼ばれる輝く笑顔で世界の人々を照らした（ＡＦＰ＝時事）

2002年には、一度は落選した国会議員選挙に再出馬。得票率98％で当選を果たす。新たな大統領が誕生して独裁政治に終止符が打たれ、マータイ博士は環境・天然資源省の副大臣に就任する。

そして04年12月、「持続可能な開発、民主主義と平和への貢献」が認められ、アフリカ人女性初のノーベル平和賞が贈られた。◇

マータイ博士が訪日し、東京の池田先生のもとを訪ねたのは、ノーベル平和賞の受賞から2カ月後のことだった。

会見で博士は、先生に率直な思いを吐露した。

「皆さまが仏教の教えにもとづいた深い価値観を持っていることに感銘しています。しかも、これらの価値観が、社会に根を張っている。皆さまの思想は『生命を大切にする』思想です。『自然を大切にする』思想です。『人間の生命と社会を大切にする』思想です」

「池田会長は、生涯をかけて、大切な価値観を何百万という人たちに広めておられます。この重要性を理解する方々とともに、私は池田会長に、心から最大の感謝を捧げたい。池田会長ご自身が『人類への素晴らしい贈り物』だと私は思うのです」

さらに「若い人たちには、素晴らしい未来が待っているのです」と青年への期待を語りつつ、こう言葉を継いだ。

「これから〝何かを変えたい〟と思うのであれば、まず〝自分自身から〟変えなければならない。そして、自分自身が先頭に立って変えなければいけない。〝生きていること自体が素晴らしい体験〟なのだから、楽しんでいかなければ！――そのように思います」

先生は心から賛同し、「仏法の真髄もまた、『生きることそれ自体が楽しい』という自分自身をつくる点にあります。自分自身を変える――それが、すなわち『人間革命』の哲学です」と応じた。

その後も交流は続き、翌2006年2月、再び日本を訪れた博士は創価大学で講演。ケニアにある「グリーンベルト運動」の事務所に創価教育同窓の友を招いたこともあった。

博士が71年の尊い人生の幕を閉じたのは、2011年9月である。先生の提案で博士の名を冠するイチジクの木が植樹されたアメリカ創価大学には、この年、新たに教育棟が誕生。後に「マータイ棟」と命名された。

悲報の翌月、先生は偉大な足跡をたたえつつ、随筆につづった。

「戦う青春は朗らかだ。

どんな壁が立ちはだかろうと、勇敢なる青年の行く手を阻むことはできない。『壁を破る』――これこそが、青年の特権である。

『できないことを心配するよりも、できることを考えるのだ』

これは先月25日に、世界中から惜しまれつつ逝去されたケニアのワンガリ・マータイ博士が、自らを鼓舞していた言葉である。（中略）

苦しまずして、悩まずして、なんで偉業が成し遂げられようか。

博士は、自分でできることを考え、足元から一歩一歩、着実に運動を進めていった。その地道な積み重ねによって、幾多の壁を突き破り、新しい道を広々と切り開いていったのだ」（11年10月8日付本紙「随筆 我らの勝利の大道」）

博士たちの運動の合言葉は「ハランベー」。スワヒリ語で「みんなの力を合わせよう」との意味だ。

「一人立つ『挑戦』」と「団結」――博士の人生は、先生が築いた学会永遠の魂と響き合っている。

アメリカ創価大学の「マータイ棟」。マータイ博士が逝去した2011年に完成し、後に名前が付けられた

第49回　ワンガリ・マータイ

【引用・参考】ワンガリ・マータイ著『UNBOWED へこたれない　ワンガリ・マータイ自伝』小池百合子訳（小学館）、同著『モッタイナイで地球は緑になる』福岡伸一訳（木楽舎）、筑摩書房編集部著『ワンガリ・マータイ――「MOTTAINAI」で地球を救おう』（筑摩書房）、池田大作著『未来への選択』（潮出版社）、同著『未来対話――君と歩む勝利の道』（聖教新聞社）ほか